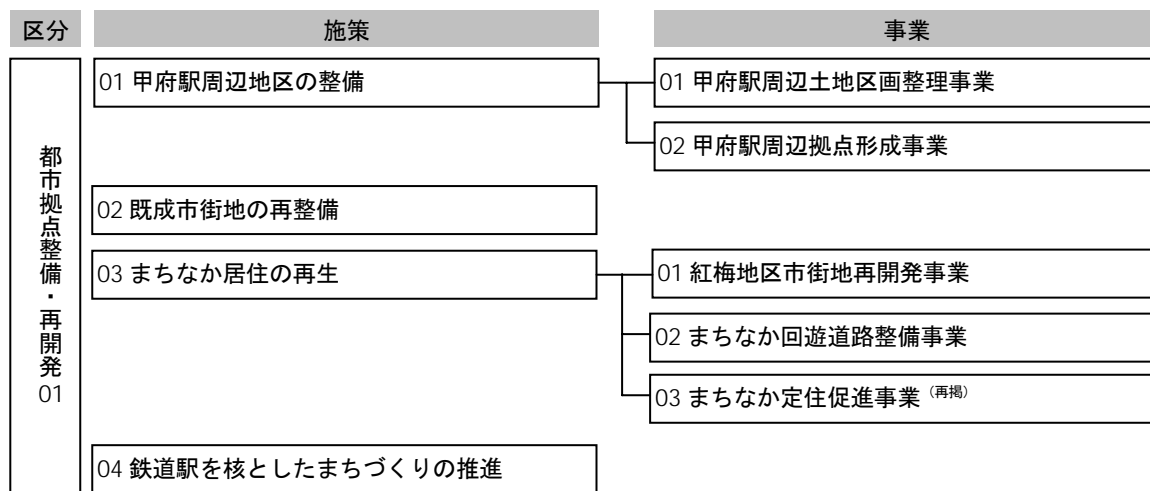


1 都市拠点整備・再開発

施策の基本的考え方

- 甲府駅周辺の大規模空閑地を活用し都市基盤の整備を充実し、新たな拠点施設の整備と企業立地の促進に努めます。
- 既成市街地において、住環境の改善及び安全なまちづくりの促進に努めます。
- 中心市街地の活性化と魅力あるまちづくりに努めます。
- 鉄道駅と連携した学園交流の拠点づくりに努めます。

施策・事業の体系



01 甲府駅周辺地区の整備

■甲府駅周辺土地区画整理事業 【事業No.05010101】	担当部課係名	都市建設部	甲府駅周辺土地区画整理課	ダイヤルイン	230-1029
			換地係・補償係・工事係		

事業概要

- 甲府駅周辺の鉄道跡地等の大規模空閑地を活用し、都市環境を整備すると共に、新たな都市拠点の形成を図るため、道路・公園等の公共施設の基盤整備を行う。

現況と課題

- 換地設計に基づく仮換地指定及び建物移転補償等地権者との合意形成
- JR 軌道下の横断部分について JR との高さ協議

今後の事業展開

- 平成 3 年度から 25 年度までの事業計画に基づき、事業の計画的、効率的な推進を図っているが、今後更に家屋の密集している地区西側の整備に入るため、施行計画を基に移転を進めようとするにも相当の期間を要し、しかも古府中環状浅原橋線及び朝日町通り線のアンダー部の改築工事を控えていることから、平成 25 年度に事業を収束させることは困難な状況下にある。よって、事業計画・実施計画の見直しを行う中で事業期間の延伸を行っていく。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
公共施設整備率 (%)	10	13	27	32	35	35
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	1,287,153		2,523,446	1,771,100	1,433,615	

■甲府駅周辺拠点形成事業 【事業No.05010102】	担当部課係名	都市建設部	甲府駅周辺拠点整備課	ダイヤルイン	230-1029
			整備係・工事係		

事業概要

- 甲府駅周辺の都市機能の整備拡充を図るため、駅周辺の大規模空閑地を活用し、よちやばれお祭り広場及び駅前広場の整備を行う。また駅前広場整備の一環としてペデストリアンデッキ*を設置し歩車分離を図り、歩行者の交通安全性、利便性の向上を目指す。

現況と課題

- 都市再生整備計画の最終年度となる平成 21 年度は、計画的な工事進捗、調整が必須となっている。

今後の事業展開

- 都市再生整備計画に基づき、着実かつ敏速な推進を図る。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
① 甲府市歴史公園整備進捗率						
② よちやばれお祭り広場整備進捗率	② 12	② 39	① 100 ② 100	—	—	① 100 ② 100
③ 駅前広場整備進捗率(%)	③ 9	③ 20	③ 100			③ 100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	81,950		596,161	—	—	

*のついた用語は用語解説をご参照ください。

03 まちなか居住の再生

■紅梅地区市街地再開発事業 【事業No.05010301】	担当部課係名	都市建設部	都市計画課	ダイヤル	237-5829
			開発指導係		

事業概要

- 老朽化した建物が密集する市街地において、細分化された宅地の統合、不燃化された共同建築物の建築及び公共施設の整備と有効なオープンスペースの確保を一体的・総合的に行い、安全で快適な都市環境を創造しようとするものである。

現況と課題

- 平成 20 年 7 月から建築工事に着手した。専門学校の開校に間に合わせるため大変厳しいスケジュールであるが、事業の工程管理の精度を高め、当初計画どおりの事業進捗が図られるよう、市の指導・支援が重要となる。急激な景気後退により、住宅・商業部分の保留床処分の代行を担う特定業務代行者およびディベロッパーの責任が、重大となっている。今後空き床をなくすための確実な処分計画が求められ、事業運営や計画への影響を最小限に留めるような支援が重要となる。
隣接する市道の改良やアーケードの建替計画があり、適切な工事計画の推進が重要となる。

今後の事業展開

- 集客施設の郊外への拡大により、中心市街地では商店の業績沈滞と、少子高齢化に伴う人口の減少が続いている。これを打開するため、中心市街地活性化施策として市街地再開発事業*等の推進が求められている。平成 22 年 10 月の施設建築物オープンを目指して建築工事を進めている。平成 21 年度は住宅床の処分を開始する。また、商業床については権利者及び保留床への参加テナントを確定する予定であり、空き部屋の解消や魅力あるテナントの誘導と共に人口定着への支援が重要となってくる。今後事業完了までのスケジュールを指導監督するとともに、平行して行われるアーケードの建替えや市道など周辺工事との調整も必要となってくる。また、完成後の建物の適切な管理を促進するため、平成 21 年度に管理規約を策定する予定である。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
事業に対する進捗率 (%)	15.0	41.1	72.1	100.0	—	100.0
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	684,600		1,142,000	1,043,600	—	

■まちなか回遊道路整備事業 【事業No.05010302】	担当部課係名 都市建設部	道路河川課	ダイヤル 237-5843
		道路係	

事業概要

- 中心市街地活性化事業の一環として、歩行者空間の快適性を高め、中心市街地の回遊性を促進することを目的とした事業である。また、甲府市交通バリアフリー基本構想の実現に向け、高齢者や身体障害者など誰もが円滑に移動できる環境整備のため、特に歩道のバリアフリー化事業を推進する。

現況と課題

- 甲府市交通バリアフリー基本構想に示された特定事業に位置づけられており、また、紅梅地区市街地再開発事業区域の周辺道路であるため、この再開発事業の完成に合わせ、歩道のバリアフリー化を進める。また、再開発事業との関連の中で事業を進めていくため、事業の進捗状況や事業イメージとの調整を図りながら事業を進めていく。

今後の事業展開

- 道路においても、歩道のバリアフリー化の推進が求められているなかで、中心市街地を安全・安心、快適に回遊できる事業であることから、今後も甲府駅周辺土地区画整理事業の事業計画にあわせ、山交デパート北の市道舞鶴公園北通り線の歩道整備を予定し、事業を推進する。

成果指標	実績値		見込み値			目標値		
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	目標値 (H21~23)		
進捗率 (%)	—	30	74	100	—	100		
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)		
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度			
	7,275		27,140	51,000	—	78,140		

■まちなか定住促進事業 【事業No.05010303←No.03040101】再掲	担当部課係名 都市建設部	都市計画課	ダイヤル 237-5814
		計画係	

2 市街地の整備

施策の基本的考え方

- 計画的なまちづくりを住民と協働で推進します。
- 地区計画*制度を活用し、地域の特性を生かした住民によるまちづくりを推進するとともに、適切な土地利用を図る民間開発の誘導に努めます。
- 面的整備によるまちづくりの促進に努めます。

施策・事業の体系

区分	施策	事業
市街地の整備 02	01 計画的なまちづくりの推進	01 都市基本計画推進事業
	02 市街化進行地域の整備	
	03 新市街地の整備	01 濁川西地区整備事業

01 計画的なまちづくりの推進

■都市基本計画推進事業 【事業No.05020101】	担当部課係名 都市建設部	都市計画課	タイム イン	237- 5814
		計画係		

事業概要

- まちづくりに関して、基本計画の検討や策定、市民活動の支援や市民との協働によるまちづくりを推進する。
- 誰もが美しいと感じ、市民の誇りとなるような良好な景観形成を図るため、「甲府市景観条例*」及び「甲府市景観形成基本計画*」に基づき、景観法の諸制度を活用しながら「景観計画*」を策定し、市民との協働による景観まちづくりを推進する。

現況と課題

- 都市の魅力や持続がまちづくりに求められる状況において、市民主体のまちづくり研究会の支援等、市民と協働する中で、中心市街地活性化など、本市の課題に対応したまちづくりの推進を図る。
- 地域の景観特性を活かした景観形成には、市民の合意形成が不可欠であることから、今後、市民、事業者、行政との協働のもと、大学等の協力も得ながら景観まちづくりを進めていく必要がある。

今後の事業展開

- まちづくりに関し、基本計画や方針等の検討・策定、説明会などによる市民理解の向上に努めるとともに、市民主体のまちづくり研究会を支援し市民と協働して都市計画の面から魅力や活力のあるまちづくりを推進する。
- 「甲府市景観条例」及び「甲府市景観形成基本計画」に基づき、良好な景観形成の方向性や地区の景観計画等の景観ルールづくりについて、地区の景観まちづくり研究会を通し検討を行いながら景観まちづくりを推進していく。

成果指標	実績値		見込み値			目標値		目標値合計 (H21~23)
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成21年度	平成22年度	
まちづくりに関する計画等の立案・策定(件)	2	2	2	2	2	2	2	6
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21~23)	
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度			
	668		5,419	3,450	2,450	11,319		

03 新市街地の整備

■濁川西地区整備事業 【事業No.05020301】	担当部課係名 都市建設部	都市整備課	タイム イン	223- 7055
		工事係		

事業概要

- 平成17年度に市街化区域に編入した濁川西地区(74ha)内の地区施設として、区画道路(9路線)・街区公園(1箇所)を整備し、良好な市街地整備を進める。

現況と課題

- 現在仮称区画道路9号線の整備を行っているが、地区計画内の申請行為に伴って用地買収等が発生する事業であるため、整備計画の策定が難しい。

今後の事業展開

- 区画道路9路線(L=2,465m)を市道として順次整備し、その後街区公園を整備する。

成果指標	実績値		見込み値			目標値		目標値 (H21~23)
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成21年度	平成22年度	
路線整備率 (%)	1.3	10.4	13.3	13.5	13.8	13.3	13.5	13.8
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21~23)	
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度			
	6,400		5,200	5,200	5,200	15,600		

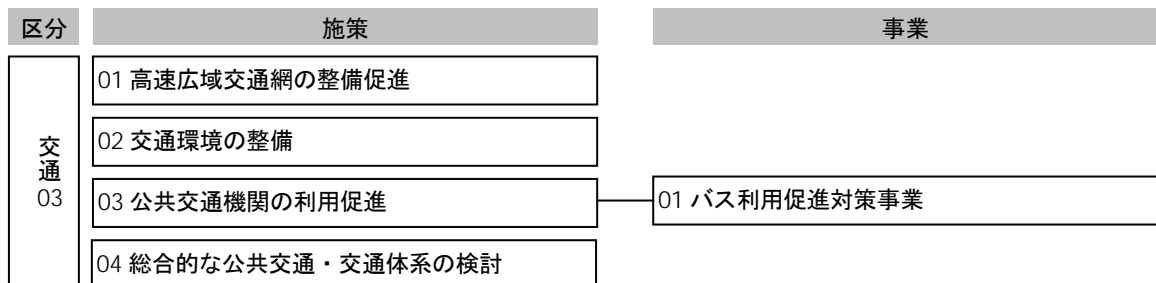
*のついた用語は用語解説をご参照ください。

3 交通

施策の基本的考え方

- 新たな国土軸*の形成による道路ネットワークの構築により、社会経済活動の変化に対応した地域活性化を図るため、高速交通網と地域高規格道路*の早期整備・促進に努めます。
- 市内中心部を通過する交通を排除することによる交通渋滞の解消を図るため、放射型道路と有機的に結ぶ環状道路の整備・促進に努めます。
- 在来鉄道及び路線バスの利便性を向上させるとともに、高齢者や障害者の日常の移動の手段として利用できる環境を整え、利用促進に努めます。
- 新時代に対応し、新たな交通システム*や既存の交通体系の連携改善により、新時代の交通体系を総合的に検討します。

施策・事業の体系



03 公共交通機関の利用促進

■バス利用促進対策事業 【事業No.05030301】	担当部課係名 市民生活部	消費生活センター	ガイライン 237-5303
		交通安全係	

事業概要

- 地域の主要生活交通であるバス路線を維持・確保していく。

現況と課題

- 市内の路線バスの利用は低迷が続いており、なお一層の利用促進策が必要である。
- 代替バス路線においては、利用者の低迷から公費負担が高んでいる。沿線自治体やバス事業者との利用促進対策が課題である。
- 市営バスについては、平成20年10月から路線を民営化し、併走するスクールバスとの路線統合により環境負荷の低減を図る中、民間バス事業者のノウハウにより路線を確保しているが、利用者の低迷による赤字額の増大が見込まれる。

今後の事業展開

- 路線の必要性を検証・分析する中、バス事業者や沿線自治体と継続的に協議し改善策を講じるとともに、利用促進のためのPRに努めていく。また、10月には市営バス路線を民営化したが、運賃の据え置きを廃止する中、今後もバス事業者のノウハウを活用し潜在利用の拡大を図り、高齢化と地域再生を支援していく。

成果指標	実績値		見込み値			目標値			目標値 (H21~23)
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
補助路線及び代替バス路線の延べ利用者数 (千人:路線全行程)	3,926	3,936	3,946	3,956	3,966				3,966
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)						計画額合計 (H21~23)
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度				
	95,764		94,697	94,697	94,697				

4 幹線道路

施策の基本的考え方

- 広域交通網の整備やそれと連携する地域の骨格となる道路網の整備に努めます。
- 災害時の避難路・都市の景観やすべての人に利用しやすい道づくりに配慮した計画的な道路整備に努めます。

施策・事業の体系

区分	施策	事業
幹線道路 04	01 広域・地域交通道路の整備	01 都市計画道路の整備事業（県施行事業負担金）
		02 金塚西(1)線整備事業
		03 和戸町竜王線整備事業
	02 防災・景観・福祉に配慮した計画的なみちづくりの推進	01 都市計画道路整備検討事業

01 広域・地域交通道路の整備

■都市計画道路の整備事業（県施行事業負担金） 【事業No.05040101】	担当部課係名	都市建設部	都市計画課	ダイヤル	237-5814
			計画係		

事業概要

- 本事業は、市の中心部を通過する広域的東西軸として、主要幹線道路を整備する。
事業対象の都市計画道路*愛宕町下条線は、現在、県施行事業として荒川渡河工区を施行しており、整備が完了する平成22年度には、甲府駅北口から甲斐市までの約4700m間（起点部分約110mを除く）が全線開通することになり、市民の利便性が格段に向上する。
本線は、山の手通りのバイパス・中心市街地へのアクセス道路としての機能を受け持つ多機能道路に位置づけられる。

現況と課題

- 平成20年度は、富士見工区の市道富士見通り線から荒川渡河工区までの約450mが暫定供用され、残りの荒川渡河工区（約800m）についても、平成22年度に予定通り供用することになっている。鋼材などの価格高騰による施工費の変動。

今後の事業展開

- 本市の主要な幹線道路として市民にとって期待感が高く、安全で円滑な交通に大きく寄与する道路であること、県施行とすることによりコスト削減が図られることなどから、早期開通に向け継続して施行を促進する。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成19年度	平成20年度	平成21年度	
荒川渡河工区の整備率 (%)	64	84	96	100	—	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	392,500		225,000	175,500	—	

■金塚西(1)線整備事業 【事業No.05040102】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 本路線に隣接する千塚公園は、平成18年度で整備を完成したが、周辺には広幅員道路がなく交通障害が発生しているため、地域交通環境の改善をすると共に、千塚公園の利便性を向上させるため本路線の早期整備を図る。
- 整備延長 L=470m、幅員 W=12.0m

現況と課題

- 起業地に建物が存在する箇所が多いため、用地及び移転補償の交渉が難航する可能性がある。

今後の事業展開

- 平成24年度の事業完成に向け、計画的に事業推進を図る。
・実施期間（平成20年度～平成24年度） 用地買収・整備工事

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成19年度	平成20年度	平成21年度	
路線整備率 (%)	—	0	6	10	50	50
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	288,228		365,800	309,000	100,000	

*のついた用語は用語解説をご参照ください。

■和戸町竜王線整備事業 【事業No.05040103】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 都市計画マスタープランにおいて、中心市街地の骨格を形成する「こうふ都心環状線」の東西方向の放射型道路として位置づけ、中心市街地の交通を円滑にすると共に、市街地活性化に寄与する道路として山梨県と協議を図る中で、早期整備を図る。

現況と課題

- 事前に地元説明会を行っているが十分な理解が得られていないこと。
- 一級河川の濁川改修計画について、山梨県が検討中であるため平面計画が定まっていない状況である。

今後の事業展開

- 平成 21 年度詳細設計を行い、平成 22 年度から補助金を活用して整備を行う。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H21～23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
路線整備率 (%)	—	—	—	—	5		5
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
	—		5,700	24,000	413,200	442,900	

02 防災・景観・福祉に配慮した計画的なみちづくりの推進

■都市計画道路整備検討事業 【事業No.05040201】	担当部課係名	都市建設部	都市計画課	ダイヤル	237-5814
			計画係		

事業概要

- 本市の都市計画道路は、高度経済成長期の人口増加や経済成長に伴う交通量の増大などを背景に、その多くを定めてきた。しかし、近年、人口減少や少子高齢化の進展など都市を取り巻く社会経済状況は大きく変化してきており、都市計画道路の位置づけや必要性について検討する必要がある。

現況と課題

- 都市計画決定後、長期間を経過しても未着手の道路などでは、住民に対して長期にわたり建築物の建築制限を課している。今後も整備に相当年数を要すると見込まれることから、都市計画道路の位置づけや整備効果とともに整備の見直しを示し、住民の理解を得ることが重要であるが、その説明資料の作成には専門的な知識や解析作業が必要である。

今後の事業展開

- H21 年度 総合交通体系調査の成果に基づき甲府市内の都市計画道路の見直し準備を行なう。
- H22 年度 都市計画道路の見直し業務
- H23 年度 都市計画道路の見直し業務の成果に基づき住民説明会

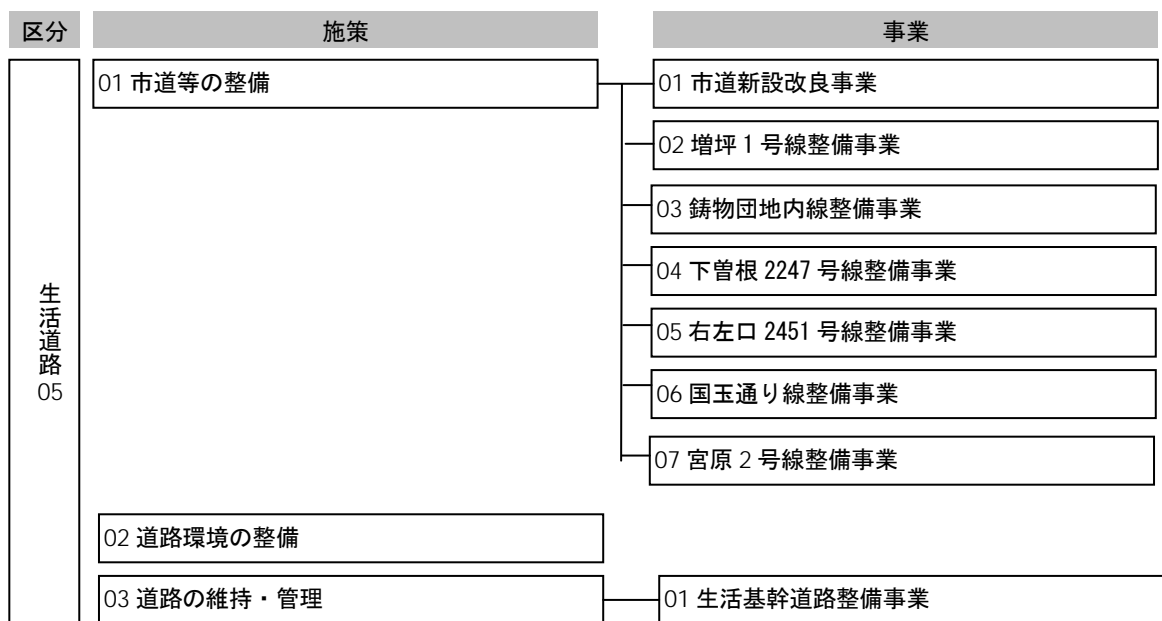
成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H21～23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
都市計画道路の整備率 (%)	56.1	56.5	56.5	57.1	57.1		57.1
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
	11,811		0	0	0	0	

5 生活道路

施策の基本的考え方

- 地域の利便性を図るために道路整備を推進するとともに、交通安全や防災上から狭小道路の拡幅整備に努めます。
- バリアフリー化*・植栽・電線類の地中化*を推進し、人にやさしい道づくりに努めます。
- 市道の適切な維持補修、道路工事の適切な施工管理の推進、不法占拠の是正推進や里道等の適切な管理に努めます。

施策・事業の体系



01 市道等の整備

■市道新設改良事業 【事業No.05050101】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 生活道路（市道）を整備し、地域環境の改善や交通の安全性及び利便性の向上を図る。

現況と課題

- 限られた予算内で、住民要望と事業効率の整合を図り、施工路線を選定しなければならない。
- 市街地の路線は、補償費が大きく迅速な事業進捗は困難である。

今後の事業展開

- 市民や地域から出された要望路線の中から、部内で十分検討後に緊急度や費用対効果の高い路線を選択し、迅速な施工を行っていく。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
市道改良率 (%)	66.26	66.37	66.50	66.64	66.78	66.78
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	45,150		39,300	32,232	64,464	

■増坪 1 号線整備事業 【事業No.05050102】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 本路線は、甲府市東南部における幹線道路であり、市立甲府病院や小瀬スポーツ公園に集中する交通量を、国道 20 号と市道寺前線に分散させ、地域の交通流の円滑化や交通利便性の向上を図る。
- 整備延長 L=1,600m、幅員 W=16.0m

現況と課題

- 一部の用地取得が困難な状況にある。
- 道路改良工事施工に伴い、既存水路の復旧工事を施工するが、水路の構造・施工方法等について地元関係者との協議が必要となっている。

今後の事業展開

- 平成 23 年度の事業完成に向け、計画的な事業推進を図っている。特に事業評価検討委員会の評価を踏まえ、未買収の用地取得に努めると共に、上町交差点から市道 618 号線までの早期供用開始を図り、投資効果を高めていく。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
路線整備率 (%)	27.5	27.5	33.8	43.1	100	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	96,900		100,000	148,900	200,000	

■ 鑄物団地内線整備事業 【事業No.05050103】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 国や県の事業と協調し、県内有数の渋滞発生箇所である国母交差点の渋滞解消と、地域交通環境の改善を行う。
- 整備延長 L=388m、幅員 W=14.5m~16.0m

現況と課題

- 国や県と連携し、短期間に事業完成を図り整備効果を出さなければならない。
- 用地買収交渉が一部難航している。
- 国や県の事業と施工管理・工程管理等について綿密な調整が必要となる。

今後の事業展開

- 平成 21 年度の完成を目指し、国や県と連携する中で計画的に事業推進を図る。
- ・ 平成 19 年度～平成 21 年度 用地買収・整備工事

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H21~23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
路線整備率 (%)	0	77.3	100	—	—	100	
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21~23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
	20,000		13,400	—	—	13,400	

■ 下曽根 2247 号線整備事業 【事業No.05050104】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 本路線は、甲府市南部に位置し、国道 358 号線と国道 140 号線を結ぶ市道で、車両交通だけでなく通学路としても重要な路線であることから、歩車道を一体的に整備し、交通の安全性・利便性の確保を図る。
- 整備延長 L=250m、幅員 W=12.0m

現況と課題

- 本路線の中間部にある間門川への橋梁架設にあたり、県施工の間門川改修工事と整合を図るための協議を行っているが、今後も継続する必要がある。

今後の事業展開

- 県施工の間門川改修事業と整合を図り、計画的に事業推進を図る。
- ・ 平成 21 年度～22 年度 橋梁架設工、道路整備工事

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H21~23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
路面整備率 (%)	49	49	49	100	—	100	
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H21~23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
	96,500		129,000	150,000	—	279,000	

■右左口 2451 号線整備事業 【事業No.05050105】	担当部課係名 都市建設部	都市整備課	ガイムン	223-7055
		工事係		

事業概要

- 本路線は、市道間をつなぐ重要路線であり、改良整備を行う中で車両及び歩行者の安全性及び快適性の確保を図る。
- 整備延長 L=440m、幅員 W=7.0m

現況と課題

- 地域住民と工事施工時期等について充分協議し、工事着手する必要がある。

今後の事業展開

- 平成 21 年度完成を目指し計画的に事業推進を図る。
- ・平成 19 年度～21 年度 整備工事

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
路面整備率 (%)	18.2	59.1	100	—	—	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	42,750		37,000	—	—	

■国玉通り線整備事業 【事業No.05050106】	担当部課係名 都市建設部	都市整備課	ガイムン	223-7055
		工事係		

事業概要

- 本路線は、市道上阿原寿町線と都市計画街路和戸町竜王線をつなぐ重要路線であり、交通環境の改善を行う中で車両及び歩行者の安全性・快適性の確保を図る。
- 整備延長 L=760m、幅員 W=16.0m

現況と課題

- 平成 18 年度より事業を再開しているが、地権者交渉が難航している。

今後の事業展開

- 粘り強い用地交渉を進め、残りの地権者の理解を得る中で用地取得を図り、早期の工事完成を目指す。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
路面整備率 (%)	38.82	38.82	38.82	100	—	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	53,000		21,000	200,000	—	

■宮原2号線整備事業 【事業No.05050107】	担当部課係名	都市建設部	都市整備課	ダイヤル	223-7055
			工事係		

事業概要

- 本路線は、主要地方道甲府中央右左口線と国母工業団地を結ぶ幹線道路として整備し、地域内道路の渋滞解消、地域の有効な土地利用の促進及び交通の利便性の向上を図る。
- 整備延長 L=120m、幅員 W=12.0m

現況と課題

- 橋りょうの設計について、耐震基準の変更により詳細設計の見直しを行う。

今後の事業展開

- 平成24年度の事業完成に向け、計画的な整備を推進する。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成19年度	平成20年度	平成21年度	
路線整備率 (%)	—	0	0	0	25	25
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	10,000		19,850	140,000	150,000	

03 道路の維持・管理

■生活基幹道路整備事業 【事業No.05050301】	担当部課係名	都市建設部	道路河川課	ダイヤル	237-5843
			道路係		

事業概要

- 甲府市と笛吹市を結ぶ生活基幹道路（金川曾根隧道を含む市道宿心経寺境線）としての機能・安全確保のため、改修整備を行う。
- 延長 L=2,258m（トンネルL=480m含む）、幅員 W=7.5m

現況と課題

- トンネルの改修工事とトンネル以外の道路構造物についての機能診断は、山梨県が施工主体となる農道保全対策事業の国庫補助事業に採択されているため、市は負担金対応となる。しかし、機能診断結果が出ないと事業規模が確定しないため、平成22年度以降の事業規模及び期間が未確定である。また、補助対象の採択基準に該当しない事業規模も未確定である。

今後の事業展開

- 一般交通の安全性の確保及びトンネル・橋梁本体等の道路施設の長寿命化に不可欠な事業であるため、山梨県及び笛吹市との協議を行うなかで、早急に改修整備を完了させる。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21~23)
			平成19年度	平成20年度	平成21年度	
確定している21年度までの事業に対する進捗率(%)	20.8	64.3	100	—	—	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21~23)
	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	22,500		6,325	—	—	

*のついた用語は用語解説をご参照ください。

6 地籍調査

施策の基本的考え方

- 地権者及び推進委員等の理解と協力を深め、調査体制の強化に努めます。
- 調査結果を生きた情報として幅広い活用に努めます。

施策・事業の体系

区分	施策	事業
地籍調査 06	01 事業の推進	01 地籍調査事業
	02 調査結果の利活用	

01 事業の推進

■地籍調査事業 【事業No.05060101】	担当部課係名 都市建設部	地籍調査課	ダイヤル 223-6103
		地籍調査係	

事業概要

- 一筆ごとの土地について、その所有者、地番、地目の調査並びに境界及び地積に関する測量を行い、地籍の明確化を図る。
- 調査の成果は、個人の取引から公的機関による地域の整備まで、土地に関するあらゆる行為のための基礎データとなる。

現況と課題

- 市街地域に入り土地の権利関係等、地権者間の複雑な問題が多く、これらの問題解決に時間を要する。

今後の事業展開

- 市民からの早期実施の要望が高く、また災害復旧等を行う場合にも、土地データとして必要であるため、事業計画に基づき、外部委託のさらなる活用を踏まえ、迅速かつ的確な事業進捗を図る。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
実施計画調査面積に基づく調査率 (実施面積/実施計画調査面積)	40.54	41.37	42.11	42.75	43.39	43.39
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	68,408		68,771	71,970	67,417	

7 地域情報化の推進

施策の基本的考え方

- 地域情報化計画*に基づき、情報通信技術（ICT）*を活用した簡素で効率的な行政運営を図るとともに、市民の視点に立った、質の高いサービスを提供します。
また、ICTの利活用を通じて地域の持続的な発展に寄与します。

施策・事業の体系

区分	施策	事業
地域情報化の推進 07	01 電子自治体の推進	01 電子自治体推進事業

01 電子自治体の推進

電子自治体推進事業 【事業No.05070101】	担当部課係名	企画部	情報政策課	ガイムン	237-5214
			情報政策係・情報管理係		

事業概要

- 地域情報化計画に基づき、情報通信技術（ICT）を活用した簡素で効率的な行政運営を図るとともに、市民の立場に立った質の高いサービスを提供していく。特に電子自治体*の構築を通じて、庁内においては、個別システム完成度を高めるばかりでなく、すべてのシステムにおける全体最適化を進めるとともに、地域全体として、コミュニケーション基盤の形成や地域産業の情報化の推進を目指す。

現況と課題

- 本年度は、運用管理期間 10 年（平成 21 年度から平成 30 年度）の初年度に当たる。また、基幹業務システム（福祉業務システムの一部）の本稼働に向け、システム構築の作業工程、内容、作業分担に基づき確実な進捗を図っていく。
- 業務要件を確定し、具体的な設計、構築へ移行していくためには、着実な進捗管理と業務主管課との調整が重要になる。その際の基本方針としては利用者満足度や住民サービスという、最終的な「結果」を念頭に取り組む必要がある。この場合の課題としては、現状の業務フローを分析評価しつつ、同時に最も効果的に新たな業務フローを確立する必要がある。新たなシステムの稼働に向け、データ移行や運用テストを始め、様々な重要な作業があり、これらについて着実な進捗を図ると共に、稼働後の運用計画の策定などに留意したい。

今後の事業展開

- こうふ DO 計画は情報システムに関わる全体の経費を抑制するため、現行システムからの大幅なコスト削減を目指して取り組みを進めている。当初の契約に定めた経費において 30%以上の削減を図ることになったが、こうした削減効果は、現行のホストコンピュータの利用を終え、撤去されることになる平成 21 年度以降において現実の削減効果となるものである。着実な事業推進と的確なシステム運用を目指して取り組みを進めていく。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H21～23)
			平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	
①「こうふDO計画」の構築・推進						
②地域情報化計画(2007～2009)の推進	① 50	① 100	① 100	① 100	① 100	① 100
	② 60	② 80	② 100	—	—	② 100
③PMOの設置・運営(%)	③ 100	③ 75	③ 100	③ 100	③ 100	③ 100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H21～23)
	平成 20 年度		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	18,073		13,731	11,231	10,031	